

本日の  
プログラム

## 新会員卓話 菊地 満祐 会員

### 北海高校インターアクトクラブ活動報告

2年 堀江沙友加(部長) / 2年 上田七都(副部長) / 2年 苅田 志穂(会計書記)

札幌東RCの皆さまには私たちの活動にご支援をいただき、本日はこのように活動報告の場を設けていただき、ありがとうございます。

活動の際には4つの行動目標である「笑顔・挨拶・他者への思いやり・感謝の気持ち」を意識し、充実した活動となるよう努めています。

10月1日には、コロナ禍以降初めての街頭募金活動(赤い羽根共同募金)に参加し、自分たちの住む町の福祉活動に役立つ活動ができました。

6月に遡りますが、3年ぶりに開催されたインターアクト年次大会(定山溪)では、コミュニケーションゲームで皆と親睦を深め、「小児がんについて考える」という講演を聴いて、病気で苦しむ子どもたちが安全に楽しめるおもちゃ作りを体験しました。2日間を通して、相手の立場になって考え行動していくことの大切さを学びました。

7月の学校祭では震災・防災についてのクラブ展示を行いました。これは、3月に2510地区インターアクトで開催された東日本大震災の語り部によるZOOM学習を受けて取り組んだもので防災について真剣に考えるよいきっかけとなり、8月のインターアクト研修旅行(東北)にもつながりました。

3年ぶりに実施された研修旅行は、東日本大震災の現場を訪れ、被災者の経験や知恵から学び、今後の防災意識の向上をテーマに企画されました。2510地区から4校の高校生17名、顧問教諭4名、地区インターアクト福見委員長(札幌東RC)、大西直前委員長(札幌モーニングRC)、計23名で出発しました。

最初の行程は松島での震災学習で、遊覧船の中で語り部さんから当時の体験を教わりました。松島

には桂島や大小260あまりの島が点在し、震災時、それらが天然の防波堤となり松島の被害は少なかったそうです。当時松島には1,800名の観光客がいましたが、サイレンが鳴りパニックになりそうな中でも、町民と観光客が声を掛け合い、全員が瑞巖寺の裏山に避難できたそうです。防波堤の重要性・共助の大切さ・非常時でも冷静に行動が生死を分けることを学びました。多くのボランティアにより松島が復興したことを教えていただき、ボランティアの大切さを改めて感じました。

2日目午前は、最も楽しみにしていた仙台育英学園高校IACとの交流会でした。東日本大震災と北海道胆振東部地震において、当時の経験から学んだこと・今後の防災の備えや心構えについて意見交換しました。震災当時、私たちは4~6歳でしたが、仙台育英の生徒さんは今でも決して忘れることなく覚えていると語ってくれました。胆振東部地震の際に起こったブラックアウトでは、誤った情報が流れ情報に振



り回された経験を伝えました。コロナ禍で地域との接点が減少していますが、この交流会を通じて、防災意識を持ち、いざという時に自分だけでなく周りのためにも行動できるようにしたいと思いました。

午後は、ZOOM震災学習でお世話になった岩沼みんなの家に訪れ、千年希望の丘を案内してもらいました。津波により人が住めなくなった土地に避難場所として震災ガレキの丘が10数基造られておりました。千年先まで安心して暮らせるよう名付けられた丘に登り、防災への意識を心に刻みました。

最終日の午前には津波伝承アプリを使用した石巻の

街歩きでした。アプリは震災前後の街を見られ、写真と比較しながらガイドさんの説明を聞きましたが、現場に立つことで被害の大きさを実感しました。最後に見た震災遺構の旧門脇小学校は一生忘れられないと思います。

最後になりますが、コロナの感染拡大していた時期に、この研修旅行を実現していただいたロータリアンの皆さまには大変感謝しています。

たくさんの学びや気づき・感動を忘れず、今後に活かしていきます。



## 地区大会表彰

◇ ローター財団メジャードナー 菊地 章 会員

◇ ガバナー特別表彰

北海高校インターアクトクラブ



青少年奉仕委員会

社会奉仕委員会



◇ 永年出席 100%会員表彰

- 20年 岩崎修一 会員
- 清水 哲 会員
- 高橋 徹 会員
- 梅澤英行 会員
- 10年 池田 薫 会員
- 岡澤邦幸 会員
- 高山和宏 会員

